

国語 第6学年 資料を使って、みりよく的なスピーチをしよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：これまでの経験と今の考えを、資料を使って聞き手に伝える。資料を示すこと自体を目的にせず、口頭だけでは伝わりにくい経験や変化のどこを補うのかを決める。A(1)ウの学習として、スピーチメモと資料使用の計画。伝えたい考え、根拠となる経験、資料で補う内容、見せる時点、話し方を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、資料で補う内容を選び、示す時点や説明の言葉を考えて、自分の考えが伝わるようにスピーチを工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。A(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：スピーチメモと資料使用の計画を残す。伝えたい考え、根拠となる経験、資料で補う内容、見せる時点、話し方を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、A(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：写真の枚数や画面の見栄えに力を使う。資料を映して読み上げるだけになる。個人情報を含む写真を不用意に使う。これについて、話の中心と資料が示すことを対応させ、なくても伝わる資料は外す。資料の実物や自作の図を使い、出典と写っている人の扱いを確認する。資料を使えない環境では紙を示す位置を試す。〔知識及び技能〕(1)イとA(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この資料を示すと、話だけの場合より何が伝わりますか。どのタイミングで、どこを示すと分かりやすいですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、A(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：スピーチメモと資料使用の計画は紙に記録できる。伝えたい考え、根拠となる経験、資料で補う内容、見せる時点、話し方を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をA(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。A(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：大きな夢がない児童は何を話すのか。

返し：A(1)ウは将来の夢の大きさを評価しない。今大切にしていること、続けたい習慣、できるようになったことなど、自分で選べる中心でよい。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この資料を示すと、話だけの場合より何が伝わりますか。どのタイミングで、どこを示すと分かりやすいですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。A(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

